

## 式 辞

2月27日夕方のテレビから衝撃的なニュースが流れていました。あまりの驚きと共に胸が苦しくなってテレビの前で立ち尽くしたことは今のこのように覚えています。

今年に入り、新型コロナウイルスのニュースがどんどん多くなっていました。しかし、私自身どこか遠い世界の出来事のような気がしていました。もうすぐ卒業式。3年間一緒に生活した卒業生との思い出を盛り込んだ卒業式の式辞を作り終え、ほっとしていました。そのようなときに発表された「全国の小・中・高等学校・特別支援学校に、3月2日から春休みまで臨時休校を要請する」という国の方針。私にとっては正に青天の霹靂でした。明日学校で、子どもたちに何と言えよのだから、先生たちには何を指示すればいいのだからと考え、一睡もできませんでした。

卒業生の皆さん、ごめんなさい。2月28日の臨時の朝会で、皆さんの顔を直視できませんでした。悔しくて、悲しくて、何と言ったらいいのか、頭の中は真っ白になっていました。お話ししたいことがたくさんあったのに、結局言えたことが「今日の目標は、一日笑顔で過ごしましょう」だけ。こんな形で中学校生活を終わらせて欲しくなかった、卒業生の皆さんともっともっと話をしたかった、かかわわりたかった。苦境ではあっても卒業生の皆さんには下を向かず、前を向いて生活して欲しかった、今日一日で、残り1週間分の思い出をつくって欲しかった、いろいろな思いが私の中を交錯していました。

今から9年前、あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災のため、卒業生の皆さんの、幼稚園・保育所の卒園式が行われなかったことは知っていました。また、義務教育最初の日の小学校の入学式も、遅れて行われたことも知っていました。まさか義務教育最後日の卒業式を目前とした時、中学校生活をこのような形で終わらせると思うと、苦しくて悔しくてしようがありませんでした。でも卒業生の皆さんは、あの2月28日を笑顔で過ごしてくれました。本当にありがとうございます。私は、卒業生の皆さんに救われた気がしました。

さて、39名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この階上中学校で3年間一緒に生活させてもらった校長として、皆さん一人一人に卒業証書を手渡すことができ、

本当にうれしく思います。例年どおり、在校生や来賓も参加して、盛大に開きたかった卒業式でしたが、先生方は皆さんを思い、できる限りの準備をしてくれました。これまで皆さんからたくさんのパワーをいただいていたお返しです。十分ではないかもしれませんが、受け止めてください。

卒業生の皆さんと言えば、いつも男女仲良く、協力し、友達思いで生活していました。その理由が分かったような気がしました。皆さんの前にはいつも思わぬ壁が立ちはだかつてきたんですね。でも皆さんは、手に手を取ってその壁を乗り越えてきたんですね。協力性も思いやりも自然に身に付いてきたんだと思います。これは、皆さんにとって大きな財産です。何歳になっても、この財産を大切にしたいと願っています。

また、卒業生の皆さんは、この3年間で大きく成長しました。1年生の時は自信なさげだった皆さんですが、3年生になり、部活動や防災学習発表会、アクサユネスコの研修会の場で、自分の考えや思いを堂々と発表できる、そんな生徒になりました。皆さんは、やればもっともっと成長できます。これからも自信をもって何にでも果敢に挑戦していつてもらいたいと思います。皆さんが活躍する姿を思い浮かべながら、皆さんからの報告を待っています。

保護者の皆様に一言お祝いを申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございました。お子様は立派に成長しました。頼もしくなりました。お子様の晴れ姿に感慨ひとしおのものがあろうかと思えます。お子様の卒業を例年どおり盛大にお祝いしたかったのですが、残念ですができませんでした。私の力不足でした。本当に申し訳ございませんでした。しかしこれまで大きな壁を乗り越えてきたお子さんです。きっと立派に自立され、次代を担う人になるものと、心から信じております。

さあ、卒業生の皆さん。この階上の地から羽ばたくときがきました。皆さんの翼は大きく成長しました。人生の大空に飛び立ってください。皆さんの前途に幸あらんことを祈念して式辞といたします。

令和2年3月7日

気仙沼市立階上中学校長 菅原 定志